

図1. 日本海溝軸における海底間音響測距観測（東北大学 [課題番号：1210]）

1 段目：海底間音響測距観測装置の設置地点。

2 段目：得られた基線長の変化。丸数字1～3はそれぞれ1段目の地図中のADM1～ADM3に対応。

BBOBST-NX@KAP3 w/OBDC  
baytap08 & ma (1 week)

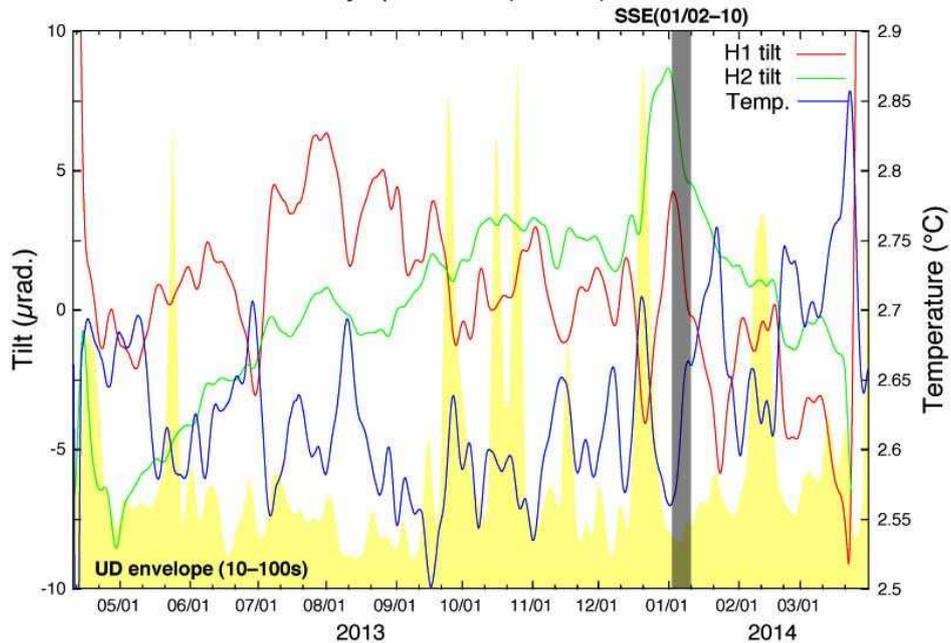
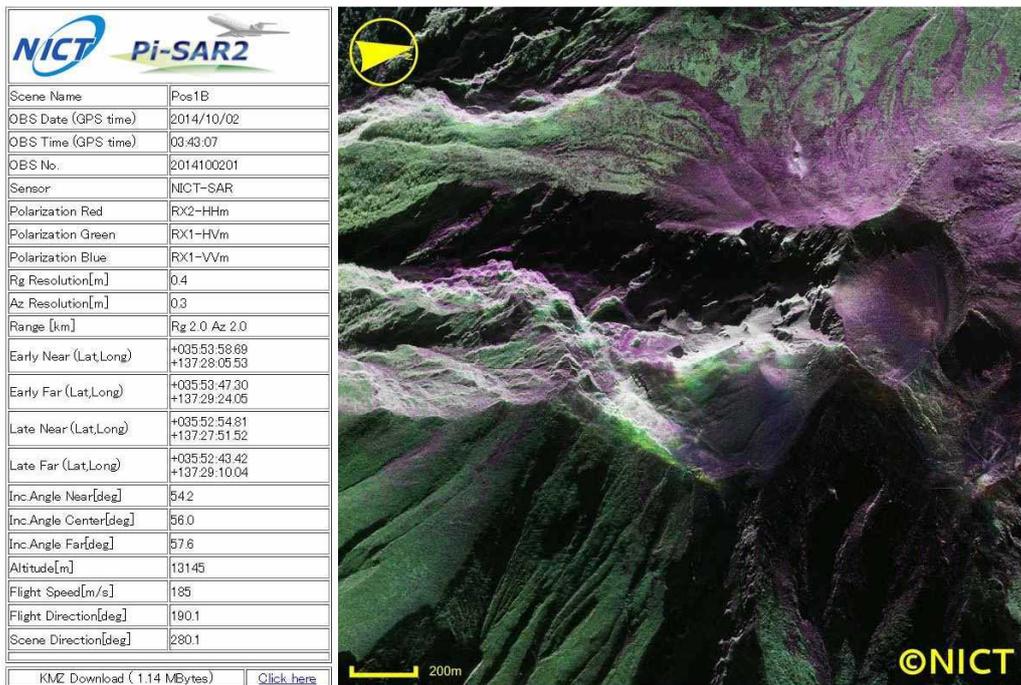


図2. 1年間にわたる海底面での傾斜変動記録（東京大学地震研究所 [課題番号：1521]）  
H1とH2の実方位はN63°EおよびN153°E。影を付けた期間は陸上の傾斜観測から検出されたSSEの期間。  
広帯域地震上下動のエンベロップ（帯域10～100秒）を黄色で示す。



© National Institute of Information and Communications Technology

図3. Pi-SAR2で観測した平成26年10月2日の御嶽山の画像（情報通信研究機構 [課題番号：0101]）  
機上で処理した画像にはポラリメトリによる疑似カラー化が施されており、植生の有無が一目で判明する。また、伝送するデータには図のように観測方位やスケールのほか観測時のパラメータが同時に掲載されており、そのまま状況把握に使用できる。

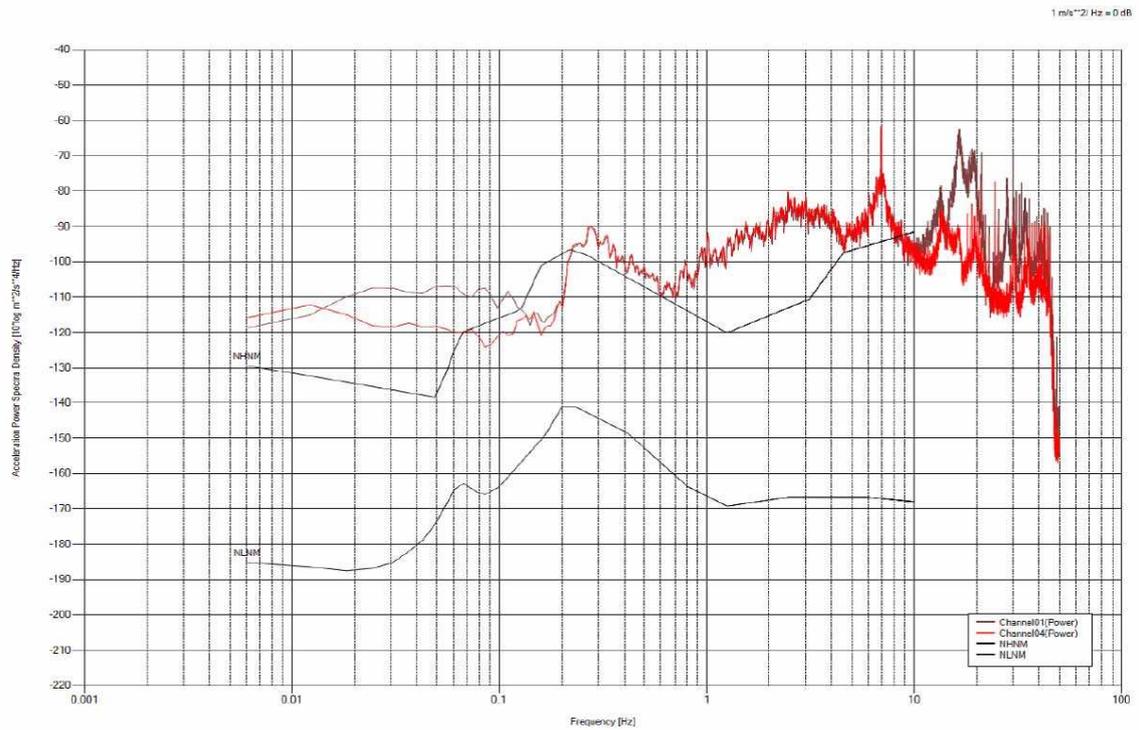


図4. 200°Cで1ヶ月間経過後の出力スペクトル（東京大学地震研究所 [課題番号：1522]）  
赤は開発した高温用地震計，茶は参照用地震計。



図5. 名古屋大学三河観測所に設置した第二世代アクロス震源装置（名古屋大学 [課題番号：1705]）  
写真は2台のユニットを直列に連結したところ。

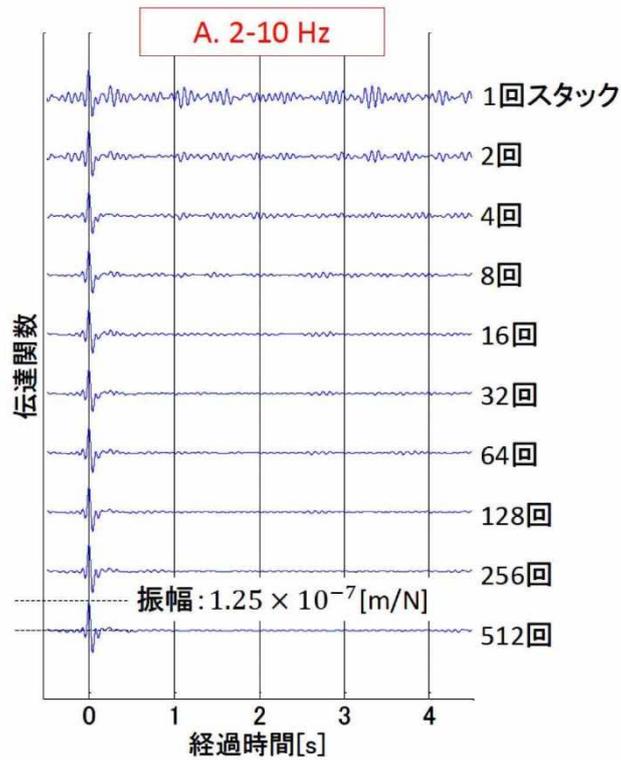


図 6. 海底掘削孔内設置用アクロス震源のプロトタイプによる伝達関数 (名古屋大学 [課題番号 : 1705])

1m 離れた場所に上下動速度型地震計を設置し、繰り返し発震して記録をとった。1 回毎のおもりの落下から震源関数を求め、地震計記録を震源関数でデコンボリューションした後にスタッキングを行った。

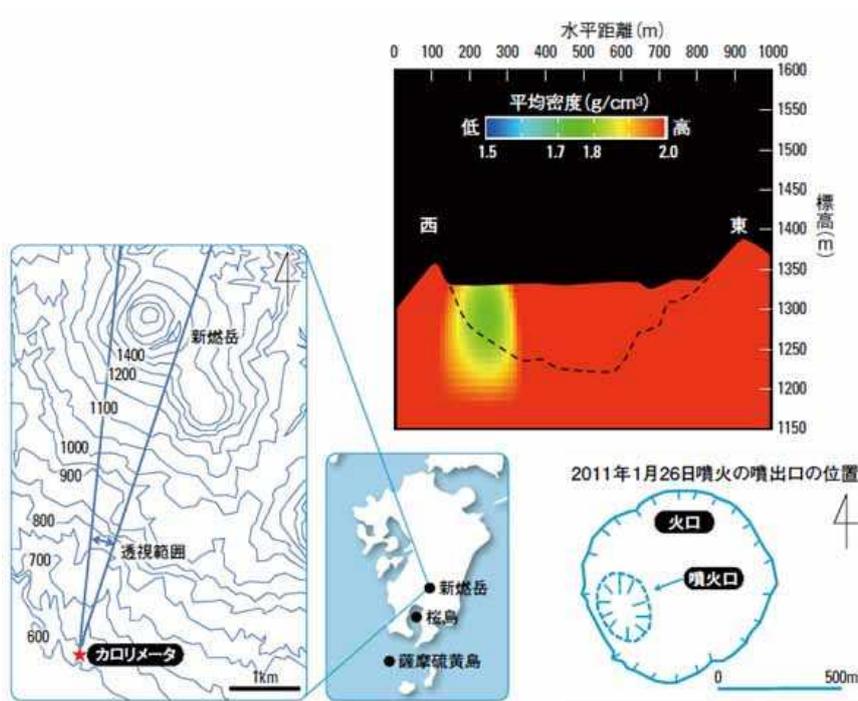


図 7. 霧島新燃岳のミュオグラフィ透視像 (東京大学地震研究所 [課題番号 : 1523])